

情報財の収益モデル

デジタル化・ネットワーク化されたメディア環境における 音楽情報財の収益モデル

服部 基宏

慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 国領研究室

本研究は、情報・メディア環境のデジタル化・ネットワーク化によって、レコード会社における音楽情報財の収益モデルがどのような変容を受けるのかという問題意識から出発し、その将来像を、収益モデルの類型化と、その母体となる対象顧客像を明らかにすることにより、探ろうとするものである。

研究のアプローチとしては、筆者の問題意識と先行研究を照合しながら、情報財の流通における取引形態やレコード会社における権利の運用管理に着目することによって、収益モデルの類型と消費者クラスターの仮説を構築し、音楽産業における事例の研究と、消費者へのアンケート調査により、意味解釈また統計帰納的にその検証を行った。

本研究を通じて得られた結論は、デジタル化・ネットワーク化されたメディア環境において、情報財の収益モデルを「権利の運用管理（統合的 - 分散的）」そして「取引形態（市場 - 非市場：市場メカニズムをどの程度活用するか）」という二つの軸により分類することの有用さと、それによる多様な情報財の収益モデルの選択肢、そしてそれらにほぼ従った消費者クラスターが存在することの確認であった。

具体的な収益モデルのオプションとしては、情報財の公共財的特性と新しいメディア環境の特長を利用し、情報の自由な利用を認めつつパブリシティ効果を得ることによって補完財で収益を上げるモデル（「無償著作物モデル」）、そして、社会的関係によって寄付などで収益を確保するモデル（「互酬モデル」）の可能性を指摘した。また、新しいメディア環境においても、ネット上で著作権保護技術を強化することやパッケージメディアによる従来の収益モデル（「有償著作物モデル」）は存続するという視点を示した。

これらを素描すると図 1、2 になる。

図1 情報財の収益モデル仮説（収益モデル類型）

情報財の収益モデル

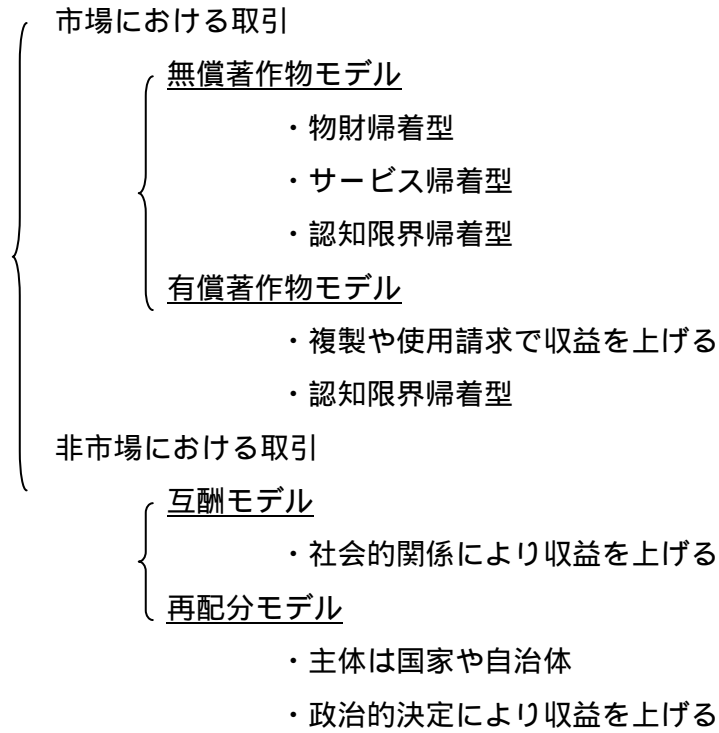
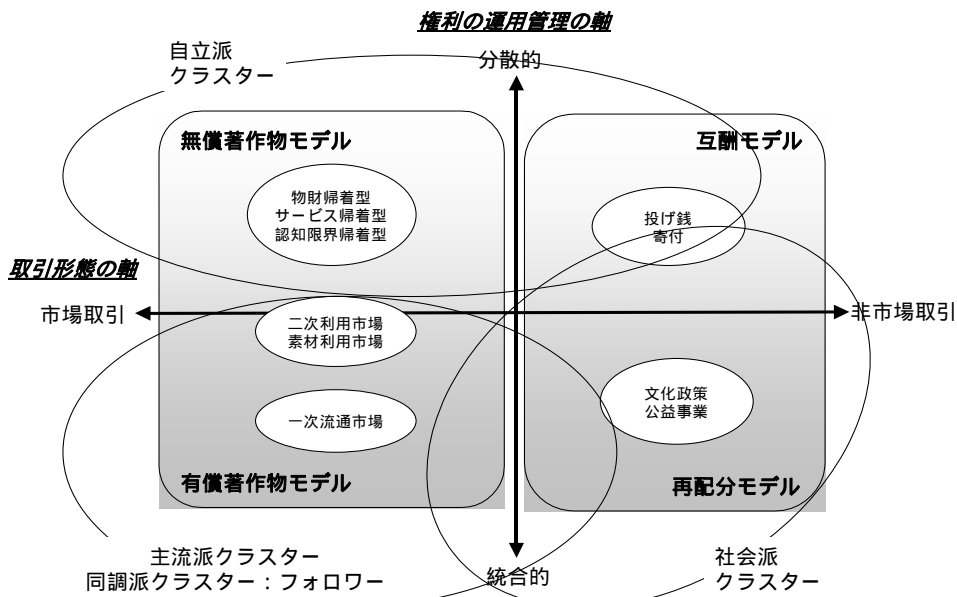


図2 情報財の収益モデル類型と消費者クラスター



赤門マネジメント・レビュー編集委員会

編集長 新宅 純二郎

編集委員 阿部 誠 粕谷 誠 片平 秀貴 高橋 伸夫 藤本 隆宏

編集担当 西田 麻希

赤門マネジメント・レビュー 1巻1号 2002年4月25日発行

編集 東京大学大学院経済学研究科 ABAS/AMR 編集委員会

発行 特定非営利活動法人グローバルビジネスリサーチセンター

理事長 片平 秀貴

東京都千代田区丸の内

<http://www.gbrc.jp>